



レンテンローズ

138 編は端書きに **ダビデの詩** とあります。ダビデを詩人と記した詩編が 8 編続きます。詩編の約半数は、ダビデの名によるものです。

礼拝で詩編を賛美、詠唱する全ての人々は、ダビデの信仰を心に呼び起こし、唇に乗せ、全身の力を捧げて、歌いつつ礼拝を捧げていたのでしょうか。

138 編の冒頭は **わたしは心を尽くして感謝し／神の御前でほめ歌をうたいます。(1)** です。137 編の詩人は **どうして歌うことができようか／主のための歌を、異教の地で。**と嘆いていましたが、それを打ち消すかのようにダビデの名による詩人は **神の御前でほめ歌をうたいます**と歌い始めます。

続いて **聖なる神殿に向かってひれ伏し(2)** と述べています。たとえ何処にいようと、神の御名を呼び、祈る時、そこは神殿、神が共にいてくださる所であると信じて、心を捧げるのです。

詩人は祈る理由を 3 つ挙げています。(1) **あなたの慈しみとまことのゆえに**、神の愛と真実のゆえに。(2) **その御名のすべてにまさって／あなたは仰せを大いなるものとされました。**意味が分り難い表現ですが、「主の約束、戒めは至上のものである」と読み解くことができます。(3) **呼び求めるわたしに答え／あなたは魂に力を与え／解き放ってくださいました。(3)**と、祈りに応えて、思い煩いから解放してくださるゆえに、感謝しています。

2 連では **地上の王は皆、あなたに感謝をささげます。(4)**と、ダビデ王朝はもとより、王として君臨する者はすべて、主を礼拝すると賛美します。王の心に留めるべきものは(1) **あなたの口から出る仰せ**、(2) **主の道について**、(3) **主の大いなる栄光** です。地上の権力による力ではなく、主の命令、主の歩みかた、主の力の前に跪こうという王の姿です。

3 連では **主は高くいましても／低くされている者を見ておられます。遠くにいましても／傲慢な者を知っておられます。(6)**と、高く、広く、深く、鋭い眼力による愛と正義と公正の主を賛美しています。

4 連こそ、最もダビデらしい言葉でしょう。**わたしが苦難の中を歩いているときにも／敵の怒りに遭っているときにも／わたしに命を得させてください。御手を遣わし、右の御手でお救いください。(7)** 忠誠心を信じられず、亡き者にしようとするサウルから逃亡し、安住の地がなかったダビデは祈りによって安らぎを得て、生きられるように導かれたのです。

5 連は詩人のゆるぎない主への信頼の言葉です。**主はわたしのために／すべてを成し遂げてくださいます。(8)**と感謝の思いと同時に、**あなたの慈しみがとこしえにありますように。**と、御手の業をどうか放さないでください。と心からの願いを捧げています。

『讚美歌 21』は、138 編を 165「心をつくして」<https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2010-09-01> で、ジュネーブ詩編歌をそのまま採用して賛美しています。ジュネーブ詩編歌はオルガンと軽やかなビオラ・ダ・ガンバによる変奏付きの合奏です。

<https://www.youtube.com/watch?v=2ORYGzorsG8&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=138>